

I. 巻頭言

このたび東北大学埋蔵文化財調査室では、『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』を、新たに刊行いたします。

東北大学埋蔵文化財調査室は、施設整備などに先立つ、構内遺跡の記録保存のための調査と、それに関連する業務を担当する、東北大学の特定事業組織です。現在の特定事業組織という組織形態になったのは、平成18年度（2006年度）のことですが、東北大学での構内遺跡の調査組織は、昭和58年度（1983年度）の埋蔵文化財調査委員会の設置にさかのぼります。その後、平成6年度（1994年度）に学内共同利用施設の埋蔵文化財調査研究センターに改組され、さらに平成18年度に現在の特定事業組織に改組されています。そのため、東北大学における構内遺跡の調査の歴史は、本年次報告で事業概要を報告する2007年度で、25年目を迎えることとなります。

これまで、埋蔵文化財調査室では、『東北大学埋蔵文化財調査年報』（以下『調査年報』と略記）を、1から24まで刊行してきました。この『調査年報』には、発掘調査以外の各種事業を含む当該年度に実施した事業の概要報告と、実施した発掘調査報告の両方を、併せて掲載してきました。

発掘調査の報告については、学術的な検討に資する詳細な報告が求められます。出土した遺物量が多い場合、整理作業に時間を要するため、『調査年報』の刊行は、調査実施年度から数年後となるのが通常でした。発掘調査の規模が大きいと、『調査年報』の頁数も必然的に増加し、300頁を越える大冊となる場合もあります。

一方、事業概要の報告は、できるだけ早く行う必要があることは言うまでもありません。大学の法人化後、各組織の事業内容が、様々に評価されるようになっており、今まで以上に事業概要を迅速に報告することが求められています。また事業概要報告には、埋蔵文化財調査室の業務を広く知っていただくという目的もあります。

これまでの『調査年報』では、年度ごとの事業概要と発掘調査の詳細な報告を併せて掲載していたため、結果的に事業概要の報告が遅くなっていました。また、頁数の多い大冊となるため、調査室の概要を知っていただくという目的には、必ずしもふさわしくないものでした。このような理由から、年度ごとの事業概要の報告と、発掘調査の報告を、分離して刊行していくこととしました。今後は、年度ごとの事業概要については、『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』という形で、毎年報告していく予定です。調査室の事業について、より広くご理解いただけるよう、わかりやすいものにしていきたいと考えております。

本調査を実施した発掘調査報告については、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』というシリーズ名で、各調査ごとに、調査報告書を刊行していく予定です。それぞれの調査について、整理作業が終了次第、順次刊行していくこととしたいと考えています。

本年次報告では、埋蔵文化財調査室が2007年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、およびその他の調査室が実施した事業について概要をとりまとめて、報告いたします。2007年度は、仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線建設による機能補償に伴う調査が、事業の中心となりました。地下鉄東西線機能補償に係わる事業では、取り壊される武道場や食堂の代替えの建物（川内サブアリーナ棟）建設や、給水管の移設に伴い、発掘調査を実施しました。これら地下鉄東西線機能補償に係る調査は、仙台市からの補償費を財源として実施しています。通常業務に加えて、これら事業を迅速に実施することが必要でした。そのため補償費を財源として、2009年度までの任期付きで、文化財調査員1名（一般職員）と技術補佐員1名（准職員）を2007年度当初より増員することとなりました。これまでに経験のないことも多くありましたが、幸い学内外の関係機関や関係者のご協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼を申しあげるとともに、今後ご支援とご協力をお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 阿子島 香